

2013年の歩み

1. 豊漁の鮎シーズン

今年は遡上が良好で、少雨の傾向はあったものの魚体は大型化しました。こうしたことから、本流に多くの釣り人が訪れる、近年まれに見る豊漁の年となりました。また、友釣り大会も念願の本流で開催することができました。

しかし、大井川河口産と滋賀県産を放流した伊久美川は鮎の定着が悪く、苦戦を強いられました。今後は放流方法や流況のほか、諸条件を見直す必要があるようです。



今シーズンで唯一の大出水となった台風 18 号
(9 月 16 日、川口発電所付近)

2. 各種放流

本年は、本支流にあわせて 1, 9 5 0 k g の鮎放流を行いました。その他の放流は次のとおりです。



大代川

あまご放流 (7 月 17 日)

平均 7 g (6~8 cm) の稚魚 6,000 尾を大代川、相賀谷川、伊久美川、大森川、大平川に放流しました。



にじマス放流 (11 月 18 日)

長島ダム湖 (ひらんだ駅カーヌー乗り場付近) に平均 8.5 g (5~8 cm) の稚魚 10,000 尾を新大井川漁協と共同で放流しました。※今年で終了

なお、うなぎ放流は稚魚の減少と価格の高騰により放流用種苗が確保できず、実施できませんでした。また、あゆ発眼卵放流は、産卵場所 (下流部) における災害復旧工事のほか、ダム放水の調整が困難であることから本年は見送ることとなりました。

3. カワウ対策

猟友会の協力による遡上期の猟銃駆除、県内一斉追い払い、春・秋の花火等による追い払いパトロールを行い、伊久美川には防鳥テープを設置しました。

秋季には下流部にたくさんの川鵜が見られました。
(上写真)



4. 利水団体との調整

昨年に引き続き、農業・工業用水、上水道等に係る 7 団体に対して、増殖に対する理解を深め、同じ水利使用者として川の環境保全について協力をお願いしました。

5. 情報提供

漁協通信を 3 回発行し、紙面を通して組合事業や課題への対応等をお知らせしました

